

子どものインターネット問題への対応方法の研究

～兵庫県2万人アンケートからわかったこと～

環境人間学部

甲南女子大学文学部

教授 竹内和雄
たけうちかずお

○講師 富田幸子
とみたさちこ

キーワード

インターネット、ネット依存、ネットいじめ、ネット炎上



研究概要

内閣府（2023）によると、インターネット利用率は2歳児ですでに82.5%、6歳児では、81.7%です。またGIGAスクール構想によって、小学校1年生が学校で情報端末を使っています。このように、子どもたちにとって、インターネットは当たり前ものになっています。今回、兵庫県青少年課等と協力し、2022年6月～8月、兵庫県全域で小1～高3、20,078人に、インターネット利用に関するアンケート調査を実施しました。

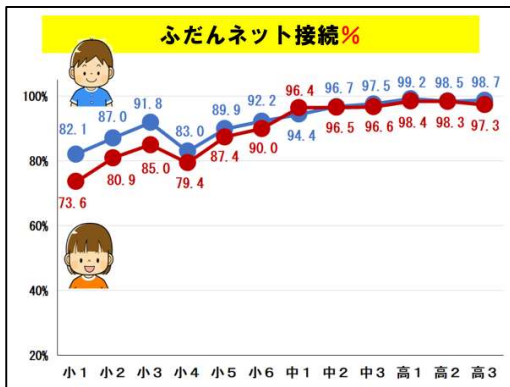


図1 日常的にネット接続する割合

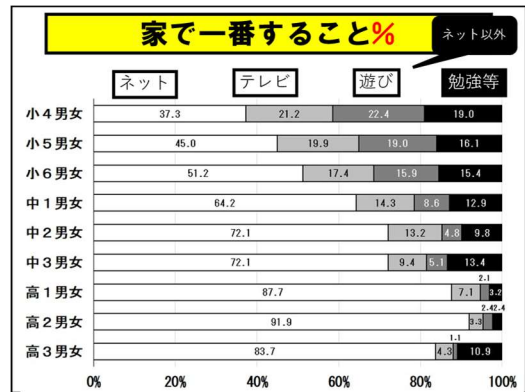


図2 家で一番長時間すること

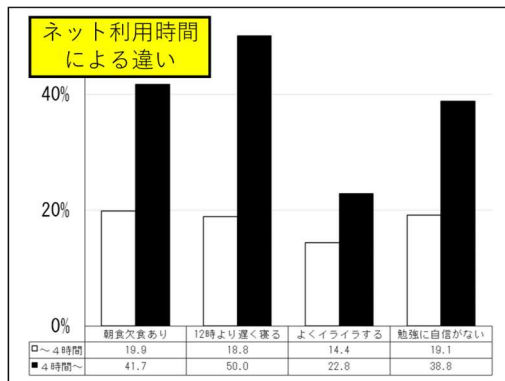


図3 利用時間による生活の違い

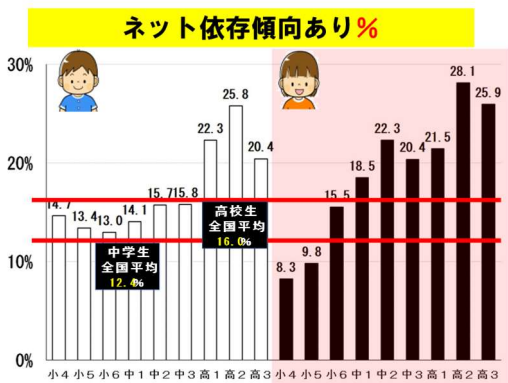


図4 学年別ネット依存傾向

厚生労働省の調査（2018）では、中学生平均12.4%、高校生平均16.0%でした。今回の調査では、中学生18.3%、高校生24.2%でした。コロナ禍で子どもたちの生活が制限されたこともあり、制限を強めるだけでは解決できないので、対応を検討していきたい。

アピールポイント

子どもたちのネット利用には、学習や読書等も含まれ、時間だけが課題ではありません。WHO（世界保健機関）は、2019年にゲーム障害を病気に認定しましたが、実は、「ネット依存」は、正式な言葉ではありません。しかし、インターネットに夢中になって、日常生活に支障が出る子どもも増えています。今回の研究をもとに、今後精緻な分析をもとに、有効な対策を検討していきたい。筆者は、「生徒指導提要（改訂版）」（文部科学省2022）の執筆者でもあるので、国の方向性を踏まえつつ、取組を進めていきたい。